

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	14-146	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol and the risk for latent autoimmune diabetes in adults: results based on Swedish ESTRID study. 成人におけるアルコールと潜在性自己免疫性糖尿病のリスク：スウェーデンの ESTRID 研究より		
<b>執筆者</b>		
Rasouli B, Andersson T, Carlsson PO, Dorkhan M, Grill V, Groop L, Martinell M, Tuomi T, Carlsson S.		
<b>掲載誌</b>		
Eur J Endocrinol. 2014 Nov;171(5):535-43. doi: 10.1530/EJE-14-0403.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、成人型潜在性自己免疫性糖尿病 (LADA)、 グルタミン酸脱炭酸酵素抗体 (GADAs)、 2 型糖尿病		25117461
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 成人型潜在性自己免疫性糖尿病 (LADA) は欧州における全糖尿病の 9% を占めると見積もられ、2 番目に一般的な糖尿病の型である。本研究では、飲酒と LADA の発症リスクとの関連について調査するため、大規模一般集団を対象とした症例対照研究 ESTRID を実施した。		
<b>方法：</b> ESTRID (LADA と 2 型糖尿病の危険因子の疫学研究) は、2010 年 9 月 1 日～2013 年 6 月 1 日に LADA (グルタミン酸脱炭酸酵素抗体 (GADA) 陽性) を発症した 250 例と 2 型糖尿病 (GADA 陰性) 764 例、ランダムに選択した 35 歳以上の対照群 1012 名から成る。飲酒量は、質問票を用いて、頻度、飲酒量、アルコールの種類について調査した。飲酒と糖尿病の関連を検討するために、ロジスティック回帰を用いて、共変量 (年齢、性別、BMI、家族歴、喫煙と教育) で調整したオッズ比 (OR) を算出した。		
<b>結果：</b> 飲酒は 2 型糖尿病と負の関連を示した (1 日のアルコール摂取量 5g 増加毎の OR 0.95, 95%信頼区間(CI) 0.92–0.99)。LADA でも同様の結果を認めたが、GADA の中央値で二分して層化解析すると、GADA 値が低い LADA のみで関連し (1 日のアルコール摂取量 5g 増加毎の OR 0.85, 95%CI 0.76–0.94)、GADA 値が高い LADA では関連を認めなかった (1 日のアルコール摂取量 5g 増加毎の OR 1.00, 95%CI 0.94–1.06)。LADA 症例で 1 日の飲酒量は GADA と明らかに関連しており、アルコール摂取量が 5g 増加するごとに GADA レベルは 10% の増加 (P=0.0312)、さらに HOMA-IR (インシュリン抵抗性指数) は 10% 減少 (P=0.0418) した。		
<b>結論：</b> 本研究の結果は、飲酒がインスリン感受性を改善し、2 型糖尿病と 2 型糖尿病様の LADA のリスクを減らす可能性を示唆した。しかし、糖尿病関連の自己免疫には有益な影響を及ぼさなかった。		